



6月園だより コロナ感染症特集4



7月「第5波」の恐れ

専門家指摘 前回宣言解除時と酷似

新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言は20日を期限に、沖縄県を除く9都道府県で解除される。しかし、「第4波」を招いた前回の宣言解除時と状況がよく似ており、感染の再拡大が不安視される。英国型(アルファ型)の変異ウイルスより感染力が強いとされるインド型(デルタ型など)の拡大などが懸念されるためだ。専門家には「7月下旬から8月にかけて『第5波』が来る恐れがある」との見方が多く、最大限の警戒を呼びかけている。

(佐々木栄、東礼奈、関連特集24面)

変異型増加

大阪府などでは2月末で前回の宣言が解除された当時から、大阪府では1日の拡大が懸念されていた。その後、急速に従来型と置き換わり、大阪府では1日の時、感染力が強い英国型の拡大が懸念されていた。その影響で再拡大に転じた。第4波の二の舞いになる恐れがある。

大阪府の緊急事態宣言解除時の比較

前回(2月末)	今回(19日時点)
72人	新規感染者数(1週間平均) 94人
90人	重症者数 109人
40.7%	重症病床使用率 29.7%
251人	自宅療養者数 543人
大阪市内の飲食店に営業時間の短縮要請	まん延防止等重点措置に移行
英国型(アルファ型)の拡大	インド型(デルタ型など)の拡大
年度替わりの人の移動	夏休みなどの人の移動

新型コロナウイルスの感染者 19日午後8時

国内合計	78万3955	+1520	17万4406				
北海道	40943	+73	1340	滋賀	5485	+11	88
青森	2453	+1	31	京都	16449	+16	235
岩手	1632	+7	46	大阪	102334	+111	2589
宮城	9064	+3	86	兵庫	40700	+18	1271
秋田	765	+1	20	奈良	8018	+10	124
山形	2020	+3	46	和歌山	2657	+1	48
福島	4764	+10	159	鳥取	466		2
茨城	10254	+33	161	島根	551		1
栃木	6776	+14	81	岡山	7577	+6	124
群馬	7999	+3	149	広島	11369	+22	166
埼玉	45459	+79	826	山口	3101	+6	71
千葉	39070	+119	701	徳島	1650		63
東京	168709	+398	2196	香川	2082	+11	29
神奈川	65305	+182	936	愛媛	2749	+2	75
新潟	3384	+1	47	高知	1715	+10	23
富山	2006	+6	37	福岡	35187	+47	510
石川	3911	+10	114	佐賀	2546	+3	24
福井	1096	+8	34	長崎	3106	+8	69
山梨	1962	+46	20	熊本	6433	+1	111
長野	4961	+7	91	大分	3480	+5	61
岐阜	9175	+17	183	宮崎	3061	+1	27
静岡	9017	+28	147	鹿児島	3632	+2	34
愛知	50429	+89	929	沖縄	20064	+97	167
三重	5181	+4	109	その他	3218	+10	5
全体合計	感染者	78万4667	+1520	死者	174419	+28	

白抜きは累計死者数。その他は空港検疫、チャーター機で帰国などの合計。都道府県とその他の感染者数は一部重複する。全体合計はダイヤモンド・プリンセス乗船者を含む。

入院等の状況 19日午前0時

入院・療養中(うち重症者)	2万1210(740)
---------------	-------------

ワクチンの接種状況 18日、読売新聞集計

総接種数	2157万2126	860万1664
接種率	1回目 16.97%	2回目 6.77%
高齢者	1532万4648	414万5120
	43.18%	11.68%
64歳以下	80万7579	21万153
	0.88%	0.23%
医療従事者	543万9899	424万6391

感染抑制で頼みの綱となるのがワクチン接種だが、高齢者を中心に進むものの2回接種を終えたのはまだ全体の1割にも満たない。

ワクチン加速

大阪府感染症情報センターの本村和嗣センター長は「現時点では『集団免疫』の効果はほとんどない。海外の状況から人口の4〜5割程度が2回接種を完了すれば、流行を抑制する効果が出てくるのではないかと分析する。」

りんくう総合医療センターの優正也・感染症センター長は「英国型やインド型は換気が悪いと、マスクを少し外しただけでも感染する可能性がある。解除後も人混みを避けるなど、気を緩めずに行動してほしい」と呼びかけている。

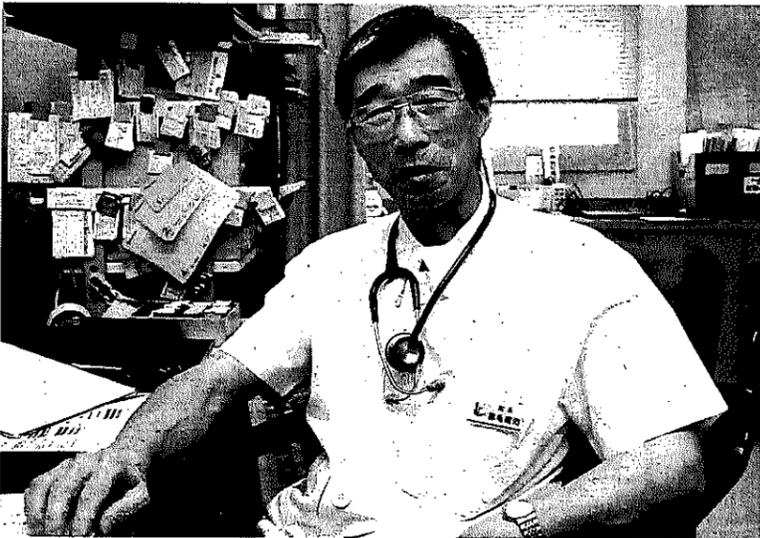
個別接種 大きな役割

とくも胃腸科皮膚科(福山市) 徳毛院長に聞く

無断キャンセル対応に苦慮

新型コロナウイルス対策として県に発令中の緊急事態宣言が20日、解除される。解除後も重要な対策となる高齢者向けワクチン接種では、身近なかかりつけ医による個別接種が大きな役割を担っている。10日から始めた「とくも胃腸科皮膚科」(福山市光南町)の徳毛健治院長(65)に今後の課題などを聞いた。

(西田大智)



「新型コロナウイルスで医療機関は疲弊しているが、医師もスタッフも一生懸命取り組んでいる」と語る徳毛院長(福山市)

「痛いからなよ。(注射が)うまいからな」。15日午後、徳毛院長が不安がるお年寄りに声をかけると、空気が和んだ。接種自体はあつという間に済み、ベッド3台を取り払って確保した待機場所に導いた。

約10年前から通院している福山市野上町、折原和子さん(87)は「足が悪くてうまく歩けないので、交通が不便な大きな会場には行けない。先生から『ここですべてあげるよ』と言われ、とても安心していきます」と信頼を寄せる。

同医院では1日24人のペースで、週120人に接種する。予約は、普段から通院している患者を優先している。「ほとんどが顔見知り。日頃の様子を知っているから、予診も時間をかけないで済む」とはいえ、外来診療と並行して行っている。午後の内視鏡検査を中止するなど、通常の診療体制にしわ寄せが出てい

る。

■市内版が所で実施 福山市によると、市内で個別接種を実施しているのは182の医療機関。65歳以上の高齢者(約14万人)のうち、約7万人が受ける想定している。

徳毛院長は、接種の難点として米ファイザー製ワクチンの取り扱いの煩雑さを指摘する。冷蔵庫で長期間保存できるインフルエンザワクチンと違い、冷凍や冷蔵の温度、期間などが細かく指定されている。1瓶あたり6回分、希釈後は6時間以内に使い切る必要がある。「発注や残量の確認、溶解にも手間がかかり、神経を使う」と語る。

無断キャンセルにも苦慮する。予約していた80歳代の患者が来院せず、急ぎで催促の電話をかけたケースがあった。「接種のことを忘れていた。高齢者では起こりえる。家族や周囲の人々がきめ細かくみてあげることが大切」と助言する。

■取り残された人は? 最も危惧するのが、高齢者接種から取り残された「ワクチン難民」がいない

かた。普段の診察で予約の有無を尋ねると、「いいんですかね」などと曖昧な受け答えをする人がいるという。「これだけニュースで騒がれていても、どうしていいかわからず、新しい事態に対応できない。一人暮らしの80歳以上には結構、そういう人が多いのでは」と警鐘を鳴らす。

さらに、「ワクチンを怖いものだと思いついていない人がいる」という。副反応について「筋肉痛や発熱、頭痛など、ほとんどの方が何か訴えるが、2日くらいで治る」とし、「必要以上に怖がることはない。ワクチンは絶大な効果があるので、積極的に打ってほしい」と強調する。

同医院で高齢者の予約が始まった時には、朝から電話が鳴りっぱなしだった。より人口が多い12〜64歳(福山市は約28万人)への接種が始まると、それ以上の混乱が予想される。「電話がパンクするかもしれない。集団接種をいかに充実させ、効率よく打つかが接種率を上げるのに重要だ」と指摘する。

高齢者への接種が終了すると、ワクチン接種の対象年齢は低くなります。それに伴い、どうしたら接種してもらえるかが重要になります。高齢者は、もともと接種したいという人の割合が高いのですが、一方で20〜30歳代では接種したい人は5割強にとどまっています。他者に感染させるリスクよりも自分のことだけを考えると、接種する手間や時間、副反応への懸念から、打たないほうがいいとなります。政府は6月18日、新型コロナウイルスワクチンの全希望者への接種を今年10〜11月に完了させると決定しました。できるだけ早く多くの人に接種するという目標を達成して欲しいと思います。